

授業の具体的展開例

- T：今日は中村桂子さんの意見に対して異なる立場のパネリストによるパネル・ディスカッションを行います。パネル・ディスカッションは以前にも行いましたね。その時どんなことに注意しましたか。
- C：パネリストは自分の立場を明らかにしなければなりません。
- T：そうでしたね。ほかにパネリストが気を付けなければならないことはありましたか。
- C：発言内容を事前に整理し、筋道立てて説明しなければなりません。
- T：今度は、フロアの聴衆の注意点を挙げてください。
- C：それぞれのパネリストの意見とその根拠をしっかりと聞くことです。
- C：発言するときは、誰に対する発言かはっきりさせ、1回の発言では一つの事柄だけを述べるのが大切です。
- T：皆さん、よく覚えていましたね。今日のパネル・ディスカッションはフロアも参加しての全体討議は行いません。パネル・ディスカッションを通して考えたことは最後に自己評価表にまとめますので、メモを取っておく等各自工夫下さい。

「活用」の力を育てる評価の視点

本時の学習を通して育てたい「活用の力」は、考えの深化と説得力のある発言力である。そのため、主な評価の場面はパネル・ディスカッションでの発言と、自己評価表の記述となる。それぞれの注目点は以下の通りである。

(パネル・ディスカッションでの発言)

- ・意見を明確に述べている。
- ・接続詞などを適切に使い論理的に述べている。
- ・他の意見を正確に理解し、自分の意見を主張している。

(自己評価表の記述)

- ・自分の意見を明確に書いている。
- ・考えの変遷を理由や根拠とともに書いている。

CLICK

自己評価表はこちら

板書例

- パネル・ディスカッション
「生き物として生きる」について
- 手順
- ①パネリストからの発表
 - ②パネリストへの質問
(回答準備)
 - ③質問への回答
 - ④自己評価表に記入
- 注意点
- ・パネリスト
自分の立場をはっきりさせる
筋道立てて説明する
 - ・聴衆
意見と根拠をしっかりと聞く
一回の発言は一つのことだけ

HOME

単元の流れへ

本時の流れへ

評価問題